

## 発音の練習はいつごろから？

発音を獲得する目安の年齢(表1.)になっても正しく言えないとき、あるいは以下のような場合、言語聴覚士のいる専門機関へご相談ください。

- 本人が発音のことを気にしている
- 発音が原因でいじめなど二次的問題が起こっている
- 話が通じにくい、心配なことがある
- 発達の過程にはみられない発音の誤り方をしている

**例** 不自然に鼻もれしているような音、「くん」と鼻を鳴らすような音、話するとき唇や顎がどちらかに引かれるように動き息が横から出る など…  
「なんだか変な音だな？」と思ったら疑ってみてください。

## どんな練習をするの？

音を聞きとる練習

舌や唇をしっかり動かす練習

正しい音を作る練習  
(一音 → 単語 → 句 → 文)

**最終ゴールは普段の生活の中で自然に使えることを目指します。**

## 家族や保育者の方に気をつけて欲しいこと

- 発音を気にせずに、お子さんの話をゆったり、じっくり聞いてあげてください。
- 無理に言い直しをさせたり、一音ずつ言わせないでください。
- 発音の誤りを注意したりせず、会話の中で正しい発音を聞かせてあげてください。



就学前にできるだけ正しい発音を獲得しておく、読み書き学習にスムーズに取り組んでいけるようです。  
発音が気になったら、言語聴覚士にご相談ください。

### お問い合わせは…

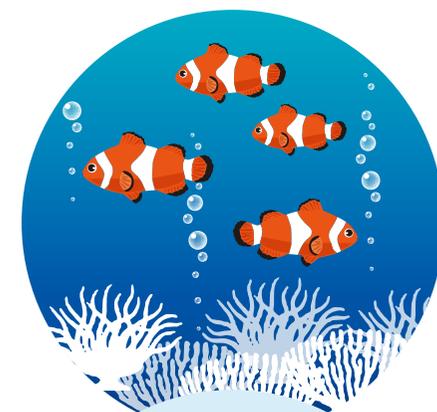
公益社団法人 **石川県言語聴覚士会 事務局 総務部**

〒926-0816 石川県七尾市藤橋町ア部6番地4  
公立能登総合病院  
リハビリテーション部内

**E-mail** info@st-ishikawa.com

**H P** https://st-ishikawa.com

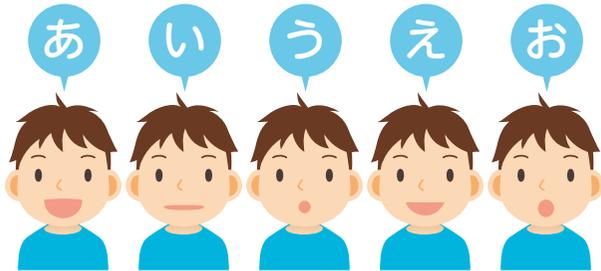
# こどもの構音障害



こう おんしょうがい

## 構音障害とは

発音に誤りがある状態をいいます。発音に関係する舌や唇などの動きが、さまざまな原因で違っていたり、動きづらいためと考えられます。



## 発音が完成するまで

### 誕生

産声(泣き声)：  
子どもが初めて発する声。  
意図的に発している声ではなく、生理的な発声。

例  
「あーうー」※さびき声ではない

### 生後3カ月を過ぎた頃

声遊び・喃語：  
意味とのつながりはないが、話しかけているかのように聞こえる発声。  
徐々に盛んになってくる。

例  
「アーアー」  
「ママママ」  
「パブパブ」等

### 1歳頃

意思の伝達を目的として音声を使う。  
音声と意味の結びついた語がみられるようになる。

例  
「マンマ」  
「ニャンニャン」等

### 5～6歳頃

ほぼすべての音が一貫して正しく発音できるようになる。

## 子どもの構音障害の原因



### 1 運動麻痺

ことばを話すための器官(舌、唇など)を動かす神経が障害され、舌や唇が動かさづらかったり、声の大きさが調節しにくかったりするために発音に問題を生じます。脳性麻痺や交通事故・転落等で頭を強く打ち、脳に障害を受けることが原因として挙げられます。

### 2 舌や唇などの形態の異常や欠損

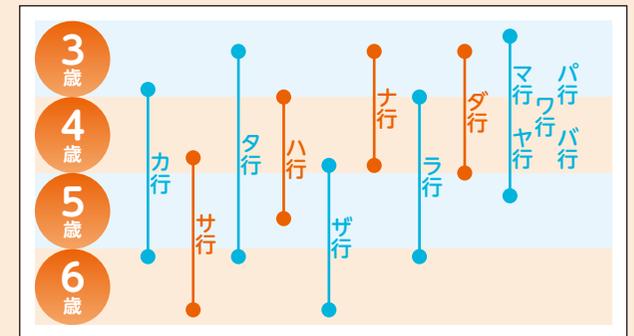
ことばを話すための器官(舌、唇など)の形態異常や欠損でうまく発音できない場合をいいます。

例) 口唇口蓋裂、舌小帯短縮症など

### 3 難聴や知的発達の遅れ

ほとんどの場合、ことばは耳で聞いて覚え、自然と発音や声の大きさを確認しています。そのため難聴があると、発音や声の大きさに問題がみられます。また、音それぞれに獲得可能な年齢があり(表1.)、知的にその年齢に達していないとその音が発音できない場合があります。

表1. 発音を獲得する年齢の目安 ※あくまでも目安です



### 4 機能的構音障害

①～③の原因がないにも関わらず、発音を獲得する年齢(表1.)になっても誤って発音している場合をいいます。発音の学習過程で誤って覚えてしまった発音の癖のようなものです。